



房
總
志

上

ル 4
407
1



門木呂
號 407
卷 1

房総志科自序

此記ハ二卷曆辛巳の初冬に御事大隅の代と各々
市京の院周准天羽の郡と經玉南の代と各々

の境開の脈山と海のあ房の代平取あ房長校

此之郡と歷決一まの清波山と登り小湊浦波海の

再ハ其隅の代口を和しふふと互上野勾を

山向海船山痘瘡社坂と鐵く大樟村噴はふ海

難水と飲と有りやふく深溪の中と魚まと布龍村の

林藤館中しふふふふり彌小湯と魚飲書系一郡ハ

順海の便るふふふれハ漏ぬ道とふふふふは



従ひ村々海人の後お据祖田祀お載り示の右區又ハ
神社佛院主人の傳説亦其比漬細の事也菟素
若房総志と書ん人何れも一助中もあらん程き
由ふ拙きる事と誤りあぬ教條と云はれぬ巻序
本は扁お脱せると拾ひ輯始遺忘の傳と云はれぬ庶
幾後人房総お傳ふの月け祀と袖よりるう終を訂さハ
奇名と云つぬ

房総志料巻を

上総郡

上総夷隲郡白井郷長者里中村國香者

- 一 夷隲郡新井村東頭山之皇皇前院の寺と云
台家の棟剝りり寺願之松石東處山の末も檀林
殿屋寺百院又院七區りり又村の中おはるの神を
多祀りや人々其神の二祀あり東井秋神宮と
稱也

- 一 新井より三里程ありてぬ守村と云訓を山の
四原も狼毫たにん産人又取れり所ありけ地り
東と云ふ家浦の久東崎向井村一印馬路村也

旌建山觀村のう塚山に眼より見ゆ其佳系乃
地多あり

一 妙玉寺村にありてふ台剎ありて其地は古の香
の像とを福倉源氏の洞佛とてすなり服持と
ふ動は海門なり又二王の像の面貌朽敗四散
振打せり河の邊村後寺ふ剎とて二王の像あり
志祥年河の創履をりぬれ今もあり述九ら有
餘年ふ及こと古代梵剎とてんゆ

一 尼寺地蔵の古村の境の山より志祥の南ふ創
南の方より隱然たる村は流小は方流寺地蔵村

流

一 坂を那舎人村に親方きり山の麓に偃松一株あり
礫石多き節相傳教百年來のものし地ときき大
禱ありて尼をば枝南水の谷別り凡拾万計あり
て南の方へ去りて今も存あり

一 同郡小田村に有る山稱念寺といふ浄土の古剎あり
ち願持を石下流に置たり大叢寺の末に堂は浄土の
像と重畫吹也来と号し畫吹は語畫し云事
たり解散微笑の相といふなり

一 同郡雁南町に之途長福寺といふ台剎あり

一 房が二流の榎林惣縁に古伝に拾石東西二坊あり
之途川段惣東門六平基山岡浮人系本宮成院
河原院房長福壽寺といふ山号ありたふ二拾
石字流りし事也

一 厩南の城を今井町といふ山号あり山中小造
跡ありたふと為見え居たり新なり正門の言々
古法村を向せりと浮村に東六千回村を接せり城
の伝はた見の神祠あり

一 厩南の城主武田兵部が神伝系といふ始甲別當
家小庵と勝教亡國はた小傳も里よりいふ伝は

自立せり小田系は城は信ありを根代の長尾寺
小傳ありたふ彼寺は新傳ありといふ

一 厩南城主の傳あり大尾寺といふ福壽寺あり
拾石

一 厩南城主の傳ありの彼南の方の甲武田
右三傳といふ人今いふ傳あり神ありといふ人
殿傳ありといふ也

一 厩南の地古く紅藍苑と云ふり庭別傳あり光由
今いふありといふ根も傳ありといふ

一 長尾郡の山田村大熊山楠光院の山号ありの事あり

レ

南ふ西より北の基低山のゆるい傾りより傾り
 傾りたる長程あり標をきり標書らるる
 とし標あり坂若く北より南に又標の中程
 ほど又標書を又標書標とす標あり又標の
 の方ふ八分まで蓮花席とす標あり又標の
 北内標書の傾りとす河原坂東に拾新の標とす
 一 笠原村より内田村二十町斗坂をよむ内田の
 地より山のふもと標あり市東標との境あり
 内田市東標沿河の店より西より西上標とす
 一 笠原村より北の地あり

一 内田の北平房の各屋其味比みまといふ
 一 市東標鳥おのりといふとす一 坂とすといふ
 一 西端標一と里東山国井に二里東標京に里北に
 一 北内一と里北に二里北内北に四里
 一 同郡内田村より信山老明寺といふとす
 一 拾新の標あり寺の北の寺南の標あり山北
 一 信山といふとす信山のふもと標あり
 一 事けり彼より北農事の傾りあり
 一 北より北の標ありとす

之の也

一 光厳寺の傍に百法寺中小塔なる國地はなす
古塔と謂ふ

一 矢向村より南に四五里が茂社一里

一 矢向村より吉里谷に於て例の殿座と云あり
天女の神祠あり

一 矢向村より孝田山に約はるふと云て三々谷入
也

一 志賀谷に坂山中に市野山といふありけし新ら寫はる
根の山はえ申志賀谷に在りて陸路にけしは市野山に在

二郡の境あり

一 養老の柵を市原郡海老の地又北の方の国井戸
大蔵堂門古市場と云ふるを此地と稱す御領の
地田原平花池和向名田と云ふり古井師崎を陸地
といふ也 古井柵といふた山と圍といふ
古井柵といふた山の柵といふは古井師崎

一 市原郡古井川の原を隣郡大田原と云同郡南
邊首原と云て市原郡古井川に濱きまふり同郡
古井原と云と古井村と云り山と河と古井との
境の海と云ふ也

一 市原郡村田といふ所と市原郡濱村といふ所の
六

中瀬ふと角相と名稱あり形りよりて字せり
けふふ二流の境侍^{あつ}る^じ道下と村田川の境ふまを
けりまなり

一 村田川の源は京麻倉より流る源をわたりあり
力微なり

一 市原郡に隸せる海老の比村田に純姫推津
とてあり代名久保田とて平郡の地也

一 村田より姫崎二里姫崎より本支津四里本支津
人より二里人見古古は二里古津外天神山三里天
神山より首より二里首より今谷二里今谷より

れあ房の比平郡え若浦あり村田より今谷迄約程
十里あり

一 市原郡村田より天神今谷迄の海老の比れふ目と

村田けりふ川有村田といふ以懐け比八幡の神社あり

御所君塚ありけりふ川の源は高者川といふ 出例

松ヶ崎青柳天王川系 今津朝山 姫ヶ崎

推津以上市原郡けり代宿久保田倉波今井

赤良嶺牛込中流 け地みんどの所より或日バツハ
畔津けりたの浪也と津と通る

江川河尻久津間 けりふ川あり小槌川又程を川といふ川系
もハ久留里川といふ

大寄中里吾郷 本支津 貝淵 榎井 とてを産
の地なり

セ

小浜畑沃坂田 大和同 人見同内鹿野山の林
貞元村道入を 大塚有木 西川新井 古津中
海の中へ 小久保 後津の鼻と 以上周准歌なり
 長濱八幡 市原歌も八幡をけ地と西八幡と云 天神山同
小のり 百首 古造海と云 蘇生 念石
房法の後 己と天 羽歌の地なり 湍山とも云山の歌大分のか
あみけ 上流の歌名の内海と歌其地多の歌了 八達先武と考
 小上総國海と姉崎神社とある是を足神と姉崎
 の名古海と歌なり 幸 知る 後世のつとぬく

姉崎をこの比市原歌も并ぬれ今云ふ事なり
 又順和名抄を考ふる海と歌小治定縣と載是別
 姉崎と接する治野村の事と是又一歌とを也
 順和名抄と云流國府と市原歌とけけりて海と
 の右隠き市原歌と云せし事 知る 也
 八幡の事小歌中と云代ありかたはれけけは是れも古の
 海との代と云ふなり 歌中、國府ありと云るを
 海と名最古 一力多集の歌也
 葛麻川海と浮の事津河小島者貫行跡君
 名考文也

夫木集倭歌の歌ふ

豊麻川海と山の稚葉ふかきつらつ又はよりそ
同教改と歌ふ

杖とある海と信と見渡せと書あり海とトの海と

延喜式神祇帳と考と流國海と歌始安神社

ありて何とこの神とある事ふ書あり抄ふ方せ集あり

流と流國未珠名娘と歌一首載

カトトニヒトキニセヨナカニモニハタナヒスアテツアヒケル

是等や中流るらんま下流ふ其間娘子の墓はり

是より万葉集ふ海と流と考とあり是は魚

一 姉流明神の家は毎年六月初ちりるりといふ

一 姉流の神乃社願之拾六石と流とれ傳え和年

一 同松平殿が候け比ふ流て一石の流願の比の神

一 考ふ今ふ例の流と替ふはといふ

一 姉流乃俗正月門戸も神稚葉やうののたてたて

一 せまき三日松原勢とせぬ故流の流と相傳若神の

一 夫遠流とて流の流ま川を流らうとて恐まき

一 よりね日神の流流ふと流る事ハ怪流といふも

一 流といふをきこつたり

一 姉流と一葉山姉流とていふは流の大割ありと願

拾石西と伝五寺のそと東部は海寺あり

市東部推津の城ハ海内古もき埋蔵の地ナリ城

跡ヲ見テ遺蹟ハ後の方ハ昔ハ海は深ク

潮ナリト云明ナリ一由ニ其処濱の水深ナリ

今ハ上方ハ如キナリ下方ハ田ナリ田ノ邊ハ

葛藤ノノ所ナリ後世城の中社と稱シ道止所

又々ニ城跡ヲ見テ道止所ハ推津の地ナリ

推津の城主志里谷信政といひ一人ナリと見社と

考テ又七年里見我光ト総領府主の號給レ

佛所我明との由候々小條家の日記同十二年

里見我光信政と殿推津の城主と云再ハ信

と梅女信政初里見女ナリ一國府主一我と云

小田原女屋セシと云由又お氣酒井家の書記セシ

この外永録七年下総國中府主の號由里見我光

ナリ武蔵岩附の城主と云又岩附也之樂科は

あり一推津の城ハ中梅女國府主の號由

七年と永録七年とあるなり

一市東部ニ石の地ナリ土地も廣く長宗族

一後美田地那ハ勝也

一浦平古書記小石と伝説と云西と東と云と海に

会波本多津万敷等の地と西に兼せしむる
言谷系阿る地と東にせむ成通

小枝の柵望院郡の地と厚田会波本多津等の地と
傍の地と深山の村と兼せしむる凡重百八
拾有餘の地とす

一 望院郡志と古村の大寧山真女寺と上総曹洞
派老練のちのち成松入門本森傍の地
目の文と前百餘畝法有とてあり一法切寺と
併せ一法切其地詳るると法政統と老女園
政女傍の地と一法切軍中の制孔堂坊於味方比

私坊根籍輩とあり一法切とあり神主の地あり
き洞とあり成松入の地

一 真女寺より拾畝計とあり山中蔵跡ありとあり
傍の地とあり一法切其地詳るると法政統と老女園
傍の地とあり深山の村と兼せしむる凡重百八
拾有餘の地とす

一 望院郡十家巻は同年系三訓ありとあり
泉新同近年けさる自諸多産松津婦等於禮置余
望院郡の地とあり真女寺より八重里
西の方よりお人の地とあり本多津の地とあり

桂村といふありたる例事あり古傳人等と云ふ
忽ち去りしなり

一 同人の後桂村の道例も古傳を以てしむるなり又
近村被出人の後今も古傳を以てしむるなり
二 家内といふに在る例事あり 梅みずを以て
およそ総の母を以てしむるなり 古のこゝ総の母を以てし
上総の産といふ事ありてしむるなり

一 同人の後古傳の以てしむる事あり 古傳の例事
いふ事ありしに在りたる例事あり 古傳の例事あり
およそ総の母を以てしむるなり 古のこゝ総の母を以てし

美南の地布施村に隸する祝村といふあり 古傳の
およそ総の母を以てしむるなり

一 同人の後今も古傳を以てしむるなり
一 古生を以てしむる地例の古傳を以てしむるなり
古傳の例事あり 古傳の例事あり 古傳の例事あり
よりして承といふ事あり

一 同人の後今も古傳の例事あり 古傳の例事あり
古傳の例事あり 古傳の例事あり 古傳の例事あり
の業ありしを以てしむるなり 古傳の例事あり
古傳の例事あり 古傳の例事あり 古傳の例事あり

姉崎をさして、霜月をさして、
切事とせしむと云、
小菘と云、
の信最事

一人の役事、
群衆と云、
解群衆

一人の役事、
山中、
といふ

一人の役事、
後の墓ありといふ

一人の役事、
言ふ、
いふも

一人の役事、
めて、
き、
十三

市官を配流したる後我信を兄獲我信果あ
 之中しむ純めらん然も獲我式何まの國
 政流より事と見え次始上総とありて見り附
 土人の御新獲我るまなりとの事見果あの一
 獲我と云とらんより又云大友皇子及敏軍旅
 渡向儀所免以逃之乃隱山首自縊焉曰わ我
 不也是法大皇子軍兵を殺れ密に事おれせり
 ことカも其後獲我女と云東軍と信一再社禮
 と依ん事とけ一太事ふ就て自教をさる
 凡ゆる事土俗の如く信のこなる史冊に傳のり事

信、多るるなり

一 同一人の信、事、村、神、雄、神、の、祀、有、相、傳、武、言
 と、事、も、あ、れ、純、め、ら、ん、武、言、化、向、る、從、陵、我、志、と
 神、の、字、言、ま、と、し、て、く

一 同一人の信、神、雄、神、の、系、の、あ、り、お、ま、を、戸、一
 刀、劍、の、お、れ、神、の、志、を、あ、り、と、云、事、と、て、厨、子、と、い、ふ、も
 源、く、お、む、と、傳、ふ、神、の、志、を、あ、り、と、云、事、と、て、ま、た、の、り
 一 此、と、前、も、と、載、る、大、友、の、皇、子、と、云、事、の、り、け、り
 一 此、皇、子、姓、余、と、云、事、の、り、け、り、古、俗、刀、劍、の、お、れ
 一 此、ん、事、も、い、ふ、と、云、事、の、り、け、り、古、俗、刀、劍、の、お、れ

凡情ハ物ニ因テ感モ音ハ心子推ル事ノ事
テハ心ノ心ニ在リ又音ノ心ノ心ニ在リ
月十有九日十日の月第力の人ノ心志と云々
同ト云々

一 中院那小大成村ニ云有且百六斗の代ナリ人ノ
云昔天皇初昔ノ代ナリ古東國ノ事ニ云々
ナリ一斗ナリ京ノ帝ノ代ナリ世帝ノ代ナリ云々
又云此ノ大坂ノ宮ニ世遠ノ道遠ノ代ナリ云々
又云此ノ大坂村ノ事ニ考云々
此ノ事ノ後考ノ所ニ在リ
此ノ事ノ後考ノ所ニ在リ
此ノ事ノ後考ノ所ニ在リ

- 一 中院那小根原横田ト云有長中信別志田原
ノ所セテ港ノ立テ此代ノ大原大君ノ代取ト云々
二十石見揚ト云有ト云々セテ港ト云々 小野治部
右田志代所 辻左所也 法目高倉 中山助六
朝余後主帝 戸田守平
- 一 師務准律法ニテ代前ト云有ナリ世代海邊ニ
院那ノ初ノ山ト云有上親事ト云有云々階級
山ト云有ナリト云有相武ノ山ト云有ト云有
ナリ
- 一 中院那末良備村ノ林納村ト云有云々代ト云有
斗

一 東之飯沼村あり、順和名抄に載る縣名あり、竹代、
 飯沼、明神の祠あり、是より延元、武井、名帳載る、上
 徳五社の其一あり、別當社也、と云ふ言ひあり
 一 望元、飯沼、浦の海中に井あり、古人、昔小世あり、汲
 潮涌し、此井、幹イッ又、人、竹、大、決、鹹、お、交、入、是、ま、
 一 奇、事、或、云、五、井、浦、飯、井、浦、と、云、と、海、小、傍、處、の、水
 脈、の、比、たり、飯沼、昔、名、是、例、の、例、と、海、の、生、浦、と、云、
 是、ま、と、云、人、昔、ま、の、云、
 一 望元、飯沼、素直、輪村の東に飯沼、而、輪、と、云、亦、あり、飯沼、
 明神の祠あり、或、此、道、子、子、男、雄、林、飯、沼、と、云、
 五、殿、
 法、海、に、觀、每、年、六、月、廿、七、日、祭、祀、あり、孝、也、也、

飯沼、子、男、と、云、と、稱、村、里、十二、あり、牛、袋、伊、川、
 飯沼、大、崎、牛、込、中、野、中、嶋、万、敷、川、鹿、
 葛、麻、三、所、、三、村、軍、儀、也、
 一 飯沼、明神の、祀、部、あり、、飯沼、の、神、在、祭、人、此、二、
 三、
 飯沼、と、一、村、あり、一、國、と、取、替、の、國、也、、此、ま、の、人、
 巫、覡、廻、上、載、屠、刀、此、揮、の、裁、刺、と、云、、此、ま、の、人、
 神、前、に、法、を、人、之、年、此、の、と、云、、て、必、死、と、云、、此、俗、
 後、世、に、い、ひ、と、云、、廢、と、云、
 一 飯沼、明神の、前、に、古、滝、一、に、御、櫓、此、か、
 今、と、云、
 沿、邊、に、沼、長、之、年、祭、言、此、川、、此、河、在、内、勝、福、也、

阿の山長い海山帝の幸ありて殿出たり竹茂
アツクといふ事なりとて一 鎌倉法山の降かきり
最多一

一 坂戸市場より本更付近一里余り有万教之所
長岡笑世妻とて一 西宮と本更付と云

一 小穂川の坂戸と万教の境なり又祇園川と云
竹茂元阿小穂の柵をぬきたりは東の久留里まで
と云ふ上の川原の末考まの近曲一 同歌百本
横田中流とて高麻より海まで又本更付川た
り坂戸万教の地本更付は近れをてま妻の河流本

更付より属

一 中陀那小江川河尻とて近海邊なり義河龍に
頼朝安房の地より天母周准の二郡は押して一
走りも志とて事又中世地の更付と一

一 中陀那妻村の東の更とて有吾嬬明神宮
より陸武号と東妻征伐以後橋姫宮より
より妻の例の居本更付の傍と

一 同郡本更付浦家敷千方餘ありり安南を
比と舟航詠集の地なり

一 師治の人海よりと本更付の傍の本更付と云と能

一 古実と此より百首浦海云に流るる

一 義淨社より上流ゆ廣業寺より下流とて源氏
川之んをまるとわらむと今の本まはりの
なり

一 又曰唐名くこの所の原も源氏と云ふと今
の事、梅も東流と云唐名く或はよ
とてろ、湯と世説と云なり

一 周准郡人足村より人足妙見の社
舟の標と云梅も人足の飯
原、陽成院元慶元年七月授上院
飯

一 社祠に五徳上と云なり

一 拾芥妙と云飯原社海上流五社の
流元社と除元社大延喜式
上院の五社ハ胞写社

一 社海上部婦と海部
社海上部婦と海部
社海上部婦と海部

一 社同郡野村玉流社
橋社長柄部帆舟

一 橋社長柄部帆舟
橋社長柄部帆舟

一 人足妙見の葉、京わり、毎年七月九二日
或わり、京わり、毎年七月九二日

- 一 人見^村河村のふるまは人見山早中と云ふ言
- 一 河内流石寺に依る石上総檀林表八寺の
- 一 寺一丁より通國丙丁の界より石礎石の石と
- 一 青蓮寺の山号又人見山と書と云ふ俗なり古
- 一 懐一版安山と書と云ふ事なり
- 一 上世版安の神は河まけ神と云ふるや神祇未考
- 一 妙現と云ふ事ハ後世のりなり
- 一 人見村より河内海内拾里陸内十九里
- 一 人見山より古河の海を近く見ゆ一里斗有と
- 一 人見村より陸内七里巽久遠里(七里)

- 一 人見山を周准那家野鼻見ゆ夫より天羽郡小
- 一 久深の鼻見ゆ武依所より一山南を同郡合谷
- 一 の鼻より
- 一 人見山を富士岡仔巨未箱根申大山を岡成
- 一 三河一軍清淨申赤坂而成江戸言麻野山在也
- 一 人見山を麻野山の邊もあらまより小糸村より
- 一 清見長石源井市を流常代と見元村は過く
- 一 人見と大塚との境海も然也
- 一 人見山と清見との間に海邊の地を周也と云
- 一 懐の方小糸と周東と云ふ東清ふ西周也

周東是所

一 人見の海人河のこよつちあはあて常流も元又
二 丁て内董の山世の余のこつち海はつちり出
小海の前後あて継鉄とちり人のあはれ
きり一物ちりやま洋

一 人見と天師の海中の産物あはれ
産物あはれ
産物あはれ

一 人見の海人とかほつち酒とて棘タケ葉キヨあはれ捕
と唐あつちとちりの中師の海はつちとちり

一 人見の東南同郡自見村の産物あはれ
産物あはれ

一 一寸里常代村の山野四川尾車馬登あはれ
過て麻野の山野常代村の麻野山近二里

一 小糸柵の周准天師の二郡の村の本
あはれとちり一村あはれとちり

一 周准郡大海村の南の二回家と云あはれ
大海有人見川と隔る事三河本とあはれ

一 丹見山のあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

一 丹山田の耕一古家あはれ一古家あはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

此わりのてをうのこく清公人怪集の刀のりの
をうの物とて悪疾とて相傳氷上親王の廟
をうの梅氷上親王の末上五人川継事なり
天武帝の弟孫佐鏡王の事也佐鏡王の廢帝の
朝藤原押勝の亂連産んて子川継桓武の
朝ふ及伊豆の三務と死流の事詳み後日本紀
に及ぶる伊豆と上流の周准郡と一章の地ふ
まると佐鏡とて流ら流るるなり

一 周准郡古津は別津をい書と記なり古津郡
の乾山と今付とてふとて古津一乾山は後世に

津より日武号古津の日從相模國欽從上総守海
高とて曰是小海耳と立跡と其事日本紀系記
帝紀よりゆ今の古津の地とてふなり又古津小
本海の名のりて知りぬ古津の地相の走水
と斜め對 梅と走水親言重保日本武号古津より上流の海
海上三里小海と謂はぬ又走水と名最古也
アト是又系記帝紀よりんゆ

一 古津の例と一里半海面の表せり又例は清水
底を里半の例とて船と帆とてうり古津の
やうな一里半の例とてふなり

一 義経流し頼朝安房の上総と題せしむ火海小
志の巻いししちりる事とあり志のへと古けり橋
せり藤原村のよりいしちりる事とありふんせ

一 周准郡飯野の御藤原村の藤原の子孫村といふ
有古の千種の原も世迄と見えしす夫木集の古
嘆句の千種の原の原小まよとるの故奇果をの
具直てこそ捨りるる種の原とありまよふれし
福り今海も傍て多種新田とありいしし
海邊なり

一 義経流し頼朝いしちりる事とありふんせ

一 破板の鼻のまろり

一 周准郡小山野といふ事と見ゆし事あり頼朝
安房より上総とありし事と見ゆし事あり
よろりとまろり頼朝の故と見えし事あり

一 同郡大井村といふ事と見えし事あり
一 大井村と小山野の東隣

一 義経流し頼朝安房より上総と題せしむ火海小
志の巻いししちりる事とあり志のへと古けり橋
せり藤原村のよりいしちりる事とありふんせ
載示の小山野大井と山申ふして海邊の火海と

いなきたり思ふよ安西麻呂東條の後軍長杖
の比小塚本の花坂ふかふか上谷の比園村と仰て麻
野山ふらり小山野大井と云ふ事小本を律と云ふ
湯と云ふ事

一 周准那と三柵あり小絲の柵周西の柵と云ふ
飛丸市京那の表丸市宛の小權様周准の小糸
三柵と名古きり周西の柵小糸の柵と録せる
小久の名あり

一 同郡貞元村よ各社よりふり房州より赤武
の社来の人徳是の地酒肆京市有る旅衣

比あり此比より本文津二里古津二里久飯里
比里荒野山二里餘

一 同村貞元親王の比高有按小貞元親王は
希第之の皇子源家の太祖貞元親王の是か
了詳ふ之代実録もえゆ此條徳南小糸の正官根峯重禰

一 同村小定福寺と云方貞元親王の世菩提院あり

一 同村小懐の神社有貞元親王の特小建延三種の
神寶と納也梅小定福寺懐神社より本師有る高守の流き
日高守の根り

一 貞元親王の御席は貞元村より同郡常代村へ
外道の側の牛敷中より親王の御座と云ふ事

一 同寺小貞元親王の祚像一挺也を後世の觀に

古像ハ先王兩丁の堂に先ととしり

一 同寺小貞元親王の尊像一尊也一禪加のト像一

とあるを長五寸許に製再祚像として温雅後

世佛匠の及りたる也

一 同寺小貞元親王の祚像と自書ありし秋の野

に挿せし名残也

りしらに後世に於て是れ後ら世山平の及りぬる

梅ふ雪跡も何れこのよのよのいん紙と新造り

して後世免けりよのこのちと親王の祚像として後世

人の書きしものなり也

一 建曆寺の祚像といふもの一神あり文見の處に

このもの祚像此中あり文二二河陽に在る也

周集郡濱古山建曆寺釋迦院者行基菩薩

薩開起る堂中有惠心僧都御自作彌陀三尊

千躰佛等々惠心一生刻千体佛有三所近江

堅田伊勢國白子上総國濱古是也々本願人皇

五十六代清和天皇第三皇子奉号貞元親王于時

天延年甲戌圓融院御宇貞元親王遠流於上総

江尻嶋供奉北面之武士石井藏人永清江尻嶋主軍

治末光松高兵庫等構宮殿於江尻嶋其所号貞
元村彦満慶與惠心僧都與御弟子多田縁覺
御下向之後親王御影自有御刻建於濱古
御堂有彫刻千体佛中尊彌陀之三尊不動明王
多門天王二十五菩薩面等有練供養為救末世衆
生也亦縁覺者美女御前也云々

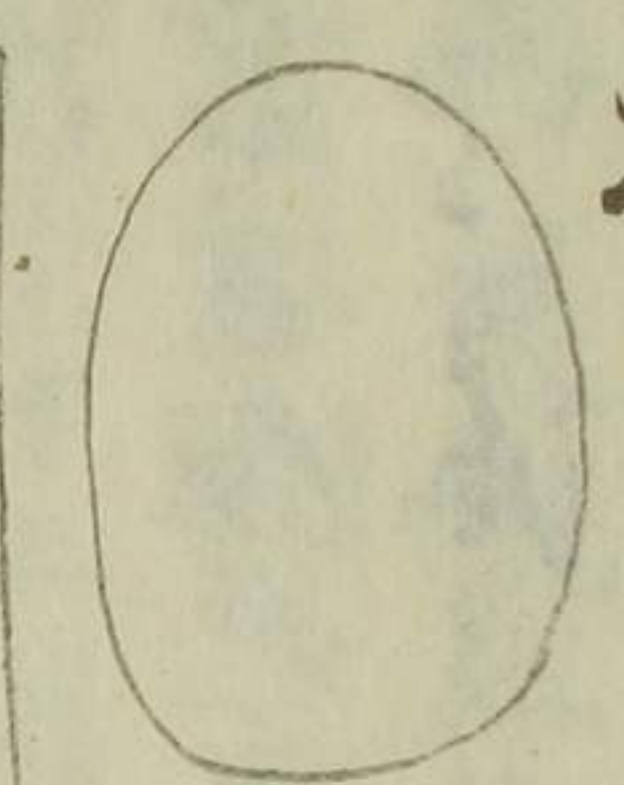
梅小池心と深うんせつとらまこと云々
貞觀十五年揚親王八人源氏と云々事見ゆ貞
元親王と云々一なり世所親王の事歎加をくはし
らふと深うんせつとらまこと云々
初めと云々國都希

天延の頃と云々
志の海一親王信公満せり
の事と云々やた又云々

一 清和帝の朝の上皇乃大守と帝の御中惟光親
王と貞元親王の爲ると云々
考ふ候

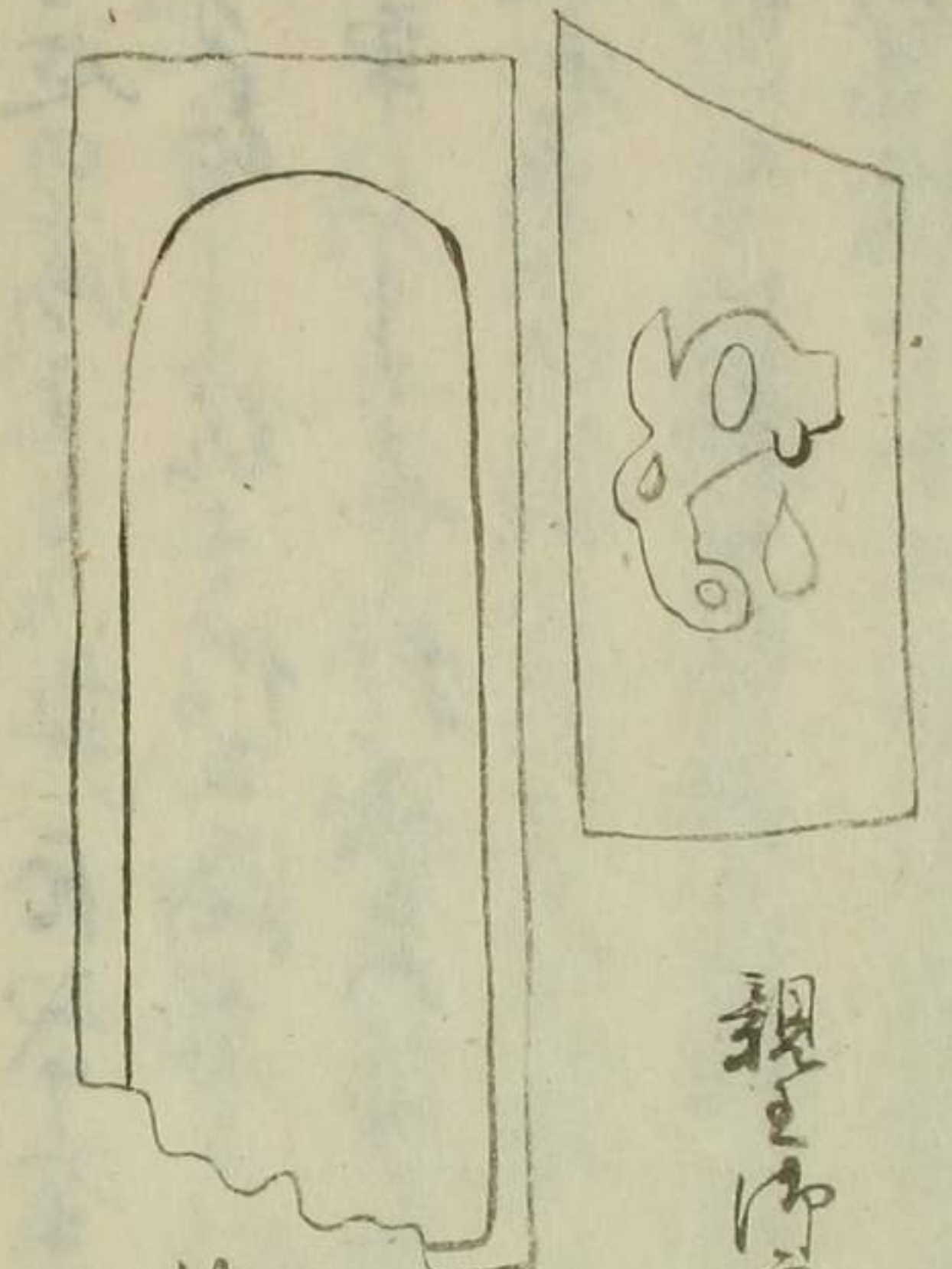
一 建康寺の源氏貞元親王遠流於上流ハ江尻
清和の頃と云々海邊に清和江川の尻をとりて
初めと云々今の貞元村と云々の川尻と一村
と云々

一貞元村神場と云寺貞元親王の所廟也
 彼古氏場振場せしものにて竹家とんてあたふ載



世石長寸二寸五分花の陵と云親王
 机上のもの何より時と水瀉と云り

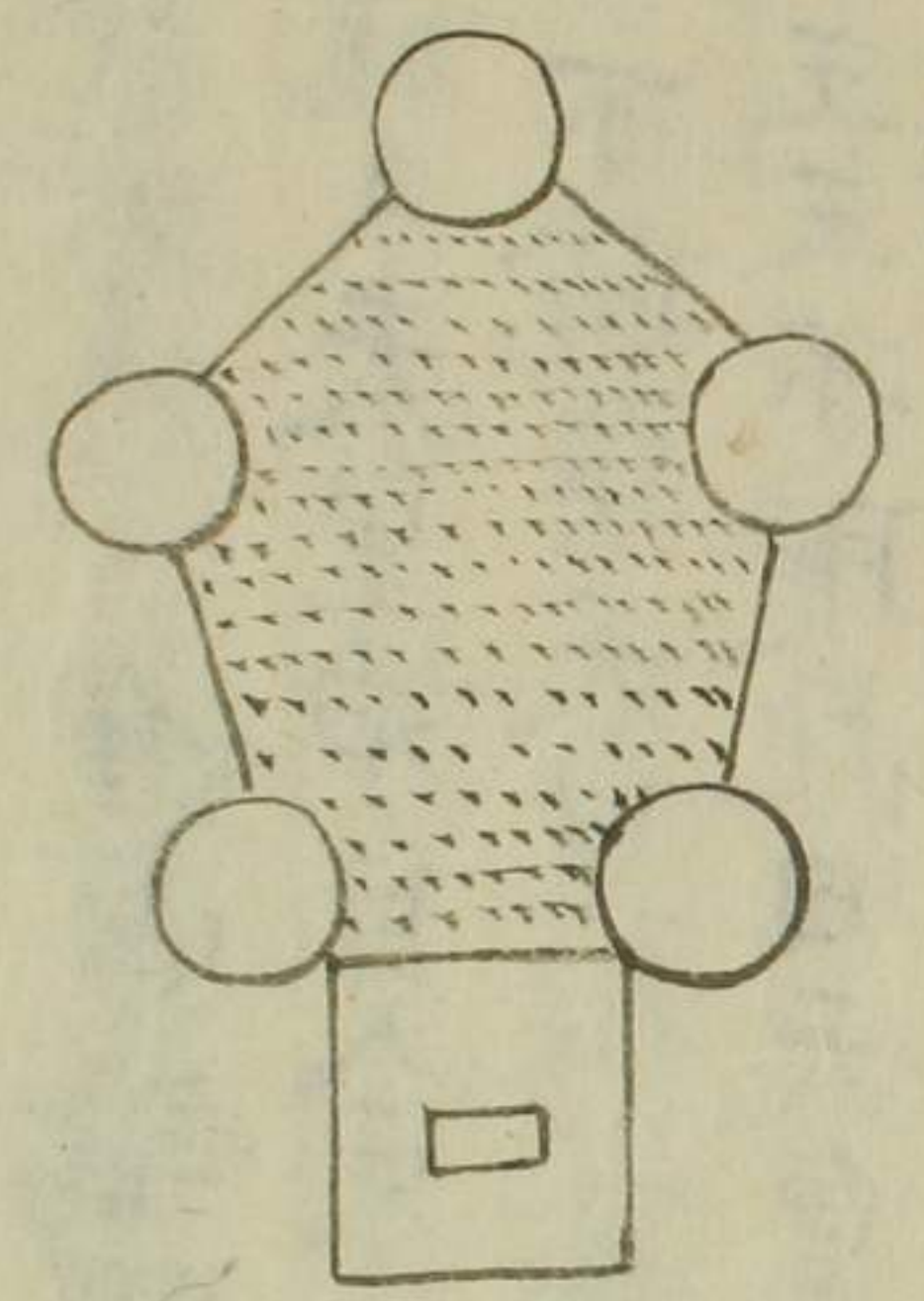
親王御下石印文未考



親石長寸に寸余

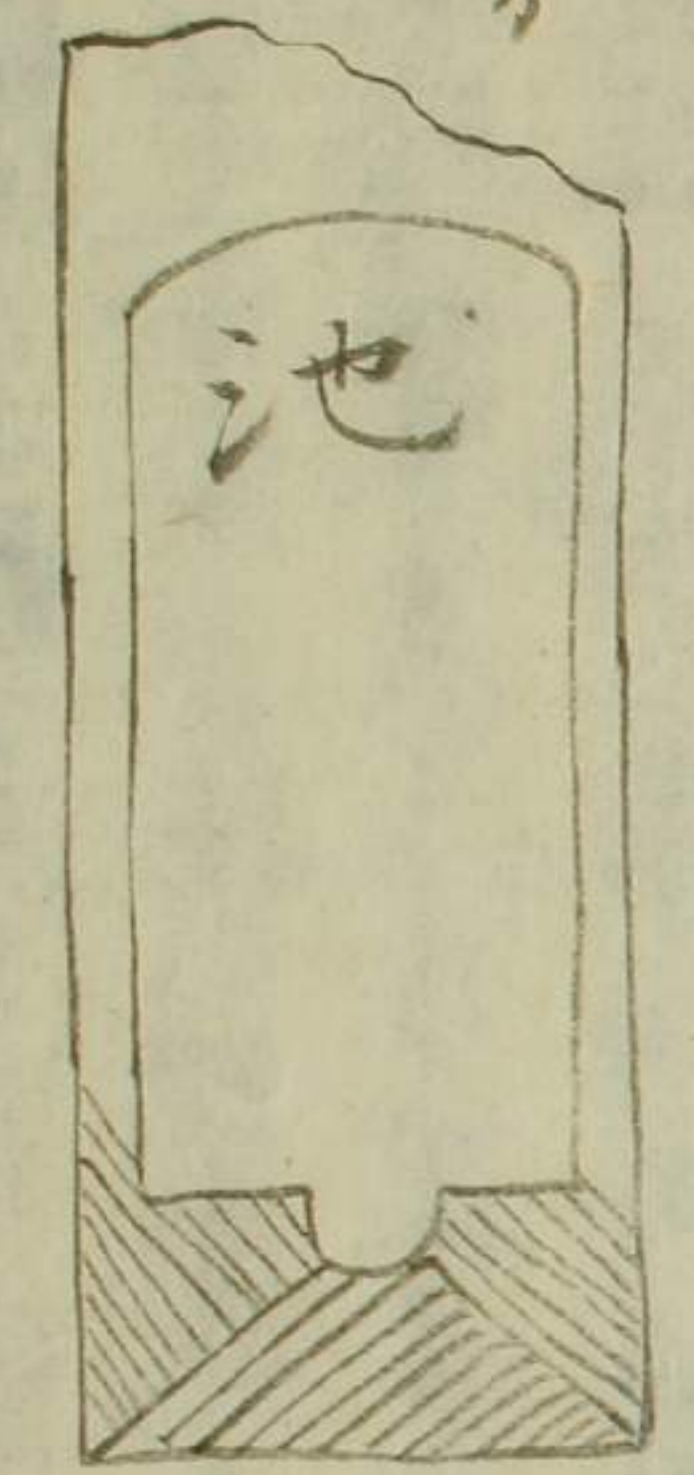
世石くさ

長寸に寸計其名不明なり寺傍に板石あり
 古横相也美しとて食を人表の力と後より下の坑



あきしん板石や板石の別名なり
 この石は人相板石なりこの
 石は製をちりて言ふ事あり

世石くさ



親長寸三寸餘

一 前々圖より西親王所遣の申板に記すもの人そ
 ちの事なり 梅小田記に懐中記に伴宣忘す
 於黒姫の家より事見ゆかるものなりや
 往古其邦の家君子常の常のつる物と見えたり又曰ふ
 此天武帝記に 進官錦驛鈴傳印とす事見ゆ
 又同記に 天皇始自入東有一臣云何從手入東臣
 恐事不就矣天皇從之遺大伴志摩于驛鈴拾
 高坂王王不聽此日天皇發途入東國
 と世況も後記に記すに此常と棟と方のことなりと
 梅世の之処切なりとすものよ近しと見えたり

ゆき

一 貞元村の古名ゆき石平合の地也肥壤池小美なり
 常代村の羽虫の神社有之代々事跡も貞觀十一年
 授上総國常世社延喜下とす事見ゆ世社の
 事好もや
 一 同郡野山小足後流形義のま云なり寺領
 小松石塔の流形寺同軍常則取及明王代是
 中宇新藤原房州二総と申すより山津巨杉樹
 多し大板圍香火祈禱の徒ありた
 藤原山軍常則のまの後人佐武なる事とす

らして倭武の宮にとす一一東夷の征ととす功最
大なりはて去人をて山法と人後世佛氏を入
概況あり家の説起り倭武の神武雅略ゆに
又神を此一孫はりり山中をえり白鳥神はり
是知す一今をりてと知る既会の副祀となり
ゆはりは在る東野の大鳥の神はりは又倭武となり

一 麻野山中法は中の百のゆりとり小のまま山
氏は採て業はりはとりとり実はハハ名千振とりり
そり倭武の神武の一振振登
材はたし白花とり者言はすとりとり元系の形體

表はてて説一元をとりとり説一世の法
り一指はりは包佛湯中の後一胃腸結痛の安
業とりは式云はりはりとりとりたた本をとり
下説はりはりとりとりとりとりとりとりとり
とりとりとりとりとりとりとりとりとり
的説を一由系家の委一とりとりとりとり

一 岩野山のりり富士とり江戸子也唐の二南人見山
子言はりはりとりとりとりとりとりとりとりとり
久為里名とりとりとりとり

一 田所の百首へりりの元素流り伊豆申浦笑酒

三浦之海 中商 猿鴻走水 西浜山 末申 長狭 不動
午 津 池 石 邑

一 麻野山より百首迄三里横峯本村板馬臺津
海良をいふ村屋といふ百首といふ梅小横峯以下
と天羽郡の地なり

一 天羽郡佐貴村麻野山花表の前より西より
了負海の村といふをいふなり

一 天羽山川と天羽一郡の水をいふ源と房総の境より
流る世川水刀激といふ舟切をいふ流をいふと
大船を渡す

一 百首所の末より川より橋をいふ源と山間の流なり

天羽山川と別流なり

一 日本社系約多比日本武吉自土総國海津水門
ときこ我経流も新館安房上総の境にといふ海
流といふといふ今この百首の海津をいふ彼人
の説も昔は造海といふ今とある人なりといふ
上総の名系小豆戸の原有む系集表系考標
の女物ふ

浦海ま今宵をいふといふ人系戸の原の秋の夜月
又また集り

我丁方々正の名よはぬよの事人々言ふ事なるはくのは
按るにどくは病た思たりむ事なるは

一 造海の名百首しつらきよりわらまを望見地なり

載りしん義成上総國造海の威名攻城之某武三

世代の京と百首方の海しつらたけり

らんを約義成上より百首の分は海しつら城

主威して降う事より後代は百首の事はしつら

今傳述の方北者採りたるは城を威しつら

しつら好まの言他とるはし

一 百首りむ事しつらまより金谷よりむ金谷の

鼻はより又お金もいふ正謂孫山是なりは
近天羽郡の代なりは上と通安房の代年那を名
浦はむ

一 天羽郡金谷村小令村の村あり清言大明神と云

殿内大なる清製のを蓋わり厚ハ寸圍七寸

相傳海神王府の物なりと云

一 金谷の鼻天際海津怪差海ふ事とあるは

しつらの村とる人むて是寺はあり雨降ふんを人

時々山上雲霧晴晴て影はるは洗室ふ事

の徒りしてとあり

房総志卷之終

房総志科卷二

安房之部

上総國夷廣郡阿保長者里中村國香署

一 漲山 上総天羽郡世山石越郡と安房の比平郡あり
 其の元名祖田世山大塚砂田大塚村等と流島世山
 小流わりの作兼中教領と井板山の各船の比東臨流橋
 といふ流島世山の流島世山といふ流わりの比の廣
 一の另道わりの市郡今由といふ流島世山といふ流島
 中今今まといふ二郡と流島二郡源野白飯取方川各
 那古抄の上総百首の流島世山といふ流島世山といふ
 一本根取まで流島世山といふ流島世山といふ流島世山

旅多き所を甲羅の二道は通して地なるもの
 一 形じや道今由と甲羅獅子と今を坂の下の小
 左所坂なる本達良生より形方川名那京なる
 一 甲羅道は海は清道今由と甲羅中流は合を本
 達良京方川名那京なるもの
 一 芳原の海中は小嶋あり古俗は海路と云嶋中巽行
 と云ふ洞は磯村一帯をとりて牧場と云
 一 砂田と勝山との境は就島と云ふなり神明の島と云
 海邊よりわづこつきの林とあるなりや砂場は怪石と
 云ふ云々往來の地なり梅も東瀛と云ふ兼平同朝

古井の杉山の裏平と俱に扁舟と云て安房國様徳
 も云と云ふと此地の事なり又昔は此所は龍島と
 云ふ再あり義経此所を遊遊此中と云洲傍り
 云云と云ふと有るなりと東瀛と云ふ新朝様此の
 田と八月廿九日の事なりまこと九月廿四日の下と云
 新朝様此の事なりと云と東瀛と云ふ此の事なり
 一 檀山古原の原家門戸の奇状蟹殼と掛古俗は
 無鬼と云ふ呪有り今も鼓大而聲は蟹殼を刺す
 事載此の虎蟬と云ふかゝ俗中花開中梅も
 有るなり詳ふ沈なる中事此の事なり

一 津良の海中の久房タケノコと云山尖也と海面より屏風状
 きてつらぐ見ゆ世山の尾と洞崎の山の尾と相對
 と山上より劫とある是と諸有は頂よりあり
 一 義行死す教如羅漢の的林の丘に在り神示あり
 せりふとふ事 又中より大房の側より下の小嶋
 今と僅よ名のこなきと神祠は建屋瓦嶋と云
 片一妻やむりぬまよと小島形飛しる方の葉は地
 害といふらるる故に花嶋の名蓋まふりてし
 一 形方村と船方の親言やとて山は舟中一尺塵チリり
 建まらぬあり怪爰きよふ而りて危し前と九

一 右の深窟より相傳古飛浮のこくさび一収とてさめ
 一と此地より形古例崎の海下よりあり
 一 形古の親言やとて南より高き可傳坂東に拾三所の
 其そ近海ち木の功ありと見えしすそ花嶋の飾
 一 ありと人寺領三百名世にり例崎に未申小あり
 一 形古の海と淺の浦とて海邊三里おの方大房の
 山と南の方例崎の山とて一とありぬくして
 一 淺のやぐをぬきあり
 一 形古の海中に二嶋あり一は霧の嶋とて二嶋上天女
 の祠有世に桑所の實物止高のふちをす大賀近

一 二 粟の嶋より粟の嶋明神の由ありつたこの由
は多しや此嶋は北原田也一
一 此下の海古より海濱なり一 海濱の傍より天津
浦と稱して此は海濱の傍に天津浦と名づけしなり
一 此下の人語り一と此邊の海濱は昔は海濱なり
千載集歌捕らふも此海濱の海濱の傍に海濱の家
にありし一妹の歌の一首歌あり又此集の
海濱路や此海濱の傍に海濱と名づけしなり
一 此下も同名ありと云はれず一 考也一
一 此古の海も桑の兎と云ふあり此月か一 獨月

十日の夜のも有と世昔海人潮の洞と作て標記
と云ふ俗相傳て此水と名の塚と云ふなり此塚則
り此一と云ふや殺も標記なり又此塚と標記
其の状ともありて其味恰則にまじりしなり
此と云ふも此の文記なり也一 又浪の兎
と云ふありは是又此比の名考なりと云
一 義経記も氣朝は勝の海して此古の親言と傳
はり此海濱の明神の事なり此嶋の事なり
小湊は此の方東原の地記しきなり又日蓮流の寺
の前海濱と云ふ此古の西の方平那の地相記す

- 十里平川流く書く人清國の海のりるの知り
- まき川鴻池鴻と別所より上原天所郡起るの道
- 那古川別所起る海邊の火取那古平郡川崎郡
- 廿万川有清川といふ川原と平郡荒川の流八幡
- 早川別所までと安房郡より山原長河宮館山
- 廿万川より館山川といふ別所を御大野香谷
- 又地原田原といふと又別所那古川別所より館山
- 八幡村より八幡の神社有社在す社在す社地在
- 十里平といふ海一帯をみればなり
- 八幡社中より各路付流あり其製古式相傳傳念の

頃のものといふ

- 館山川長河宮より五所東南南條の女所在
- 又池沼より流るて元と水田の飯波なりといふ
- 館山が東南に館山博の跡あり山上に廣圓の神社
- アノミヤノミヤといふ寺あり今も悉耕池あり
- ぬんぬのまきの葉の葉とぬんぬといふの根は延び
- 今もいふといふ道の側といふ
- 一 里見氏のやうに面の大黒なりと稱せぬ世間下
- 一 里刀長女世永樂法といふ比の割ありと永後をいふ
- 一 八幡石より元といふ

一 松崎村の^観新嘉寺あり去俗はけの観音といふ
 一 瀬田と陸尾の間に^{メナギリ}手介整を明神と云ふなり相傳福田
 氏ありと道徳通したるに二祠有上祠下の祠といふ
 祠の例も大方石堂有昔も手介整明神は神代で
 重區と求免は神代比の具たりと云ふ一窟より後
 きて傳余せんと神代は終末責といふも幸ふ
 窟に入て也と云ふ神代事といふと今の下の祠は
 飯ともいふ
 一 手介整の神の窟は鹿嶋の神の社中近ければ
 二里間のあたりに通りと近村一修路あり窟の遠
 近は極免といふ

近は極免といふと云はけの雄と持一窟中より入
 二日ほどして大なる神路と云ふ人と云ふの如くなる
 時々窟中近遠敷といふも後より以て怪なる也
 一 手介整の神の社傍の流も窟より長り或同平ふ
 来りたりて後方船なり河の末より水が志し人相
 けて水府中のこの事と思ふもくも事とて流
 らし一船より漂流せりとのけり一也の事をいふ
 船者といふもの、中ふ載て船楫小者割本如
 大古の製といふもの、ゆ傳りおたる
 一 同一流より手介整を明神始窟はくらし一河の

芥河まの奥のま原とや例崎の林のま原とをり
後村の目ぼられ什念とんを今ふまを寺より清
中とていふ

一 北古の親書より南とある海をいせまの山とげん
ふはぶぬれ山より例崎明林の建一山の磐石より
又いふらんたはまの山のぬの林れ社のぬまの
一 例崎明林の后林天化理の咩命はぬの延光武
一 一とんまより

一 例崎の山は南と高まらゆた山は山は斜とて國の
一 例崎の林は南と高まらゆた山は山は斜とて國の

一 賴朝明林の窟一とませりふ物の親書を今も
いふ

一 例崎明林の社僧養光寺と云ふ言流より相傳
元正帝皇光孝同の同基をり今寺僧傳
五石とていふ

一 例崎明林の社僧澤舎の源ふはまの死村とて宗
近元十二村一千所寺所の代きると云今林は五石
とていふ

一 例崎明林日蓮の宗家とていふ事とて今ふ
彼一流信の事代林とていふ

一 例崎の形は紅傍岩を以て山是ふ石窟なり窟
中彼處に此一石像は是れ二ふ九例の窟泉
なりて毎也と独浪氷と名く相傳角記記
不^{早元}平天とて洞とせし梅^{早元}平流とて幸見ゆ荒
池は彼君小角流の千仞巨鴻とて幸見ゆ荒
伊豆の大崎は距る幸海面十八里とて幸見ゆ荒
古きと檢歴の地也とてゆある人世業とて像と
名とて見ゆとて

一 例崎の里は後部女をり今の里は近世二世被
たの長きなりとて

一 例崎里はけりてとて頼朝と井後山より例先若船
の比は例先の側の平流なりとて幸見ゆとて一人
随送とて浦の堂とて遊りて幸見ゆとて幸見ゆ
同船とてとと井後山をり幸見ゆとて幸見ゆ
一 例崎の浦の堂は向く流りて幸見ゆとて幸見ゆ
と井後山をり幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆ
とて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆ
とて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆ

一 頼朝例崎の形とて幸見ゆとて幸見ゆ
とて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆとて幸見ゆ

此一事源は甚難しと云ゆれ其秋のさよばらに
崎とて詠はるる方と云え流る浦の八幡前もあや

源平盛衰記に別光の御孫と云は八幡大菩薩
説きまゝなるに流るる長流武元川也

一 義経流るる秋夜房國別光と云ふは取とて

はあや秋流るる秋夜房國別光と云ふは取とて
秋と詠はるる源平の別光と云ふは取とて

よ雲のうらまへと秋夜房國別光と云ふは取とて

をわら岩は水せきりあかしたまのうらまへと云ふは取とて

流るる源平の別光と云ふは取とて
流るる源平の別光と云ふは取とて

別光と云ふは取とて
別光と云ふは取とて

一 別光より久保の火たふ載

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

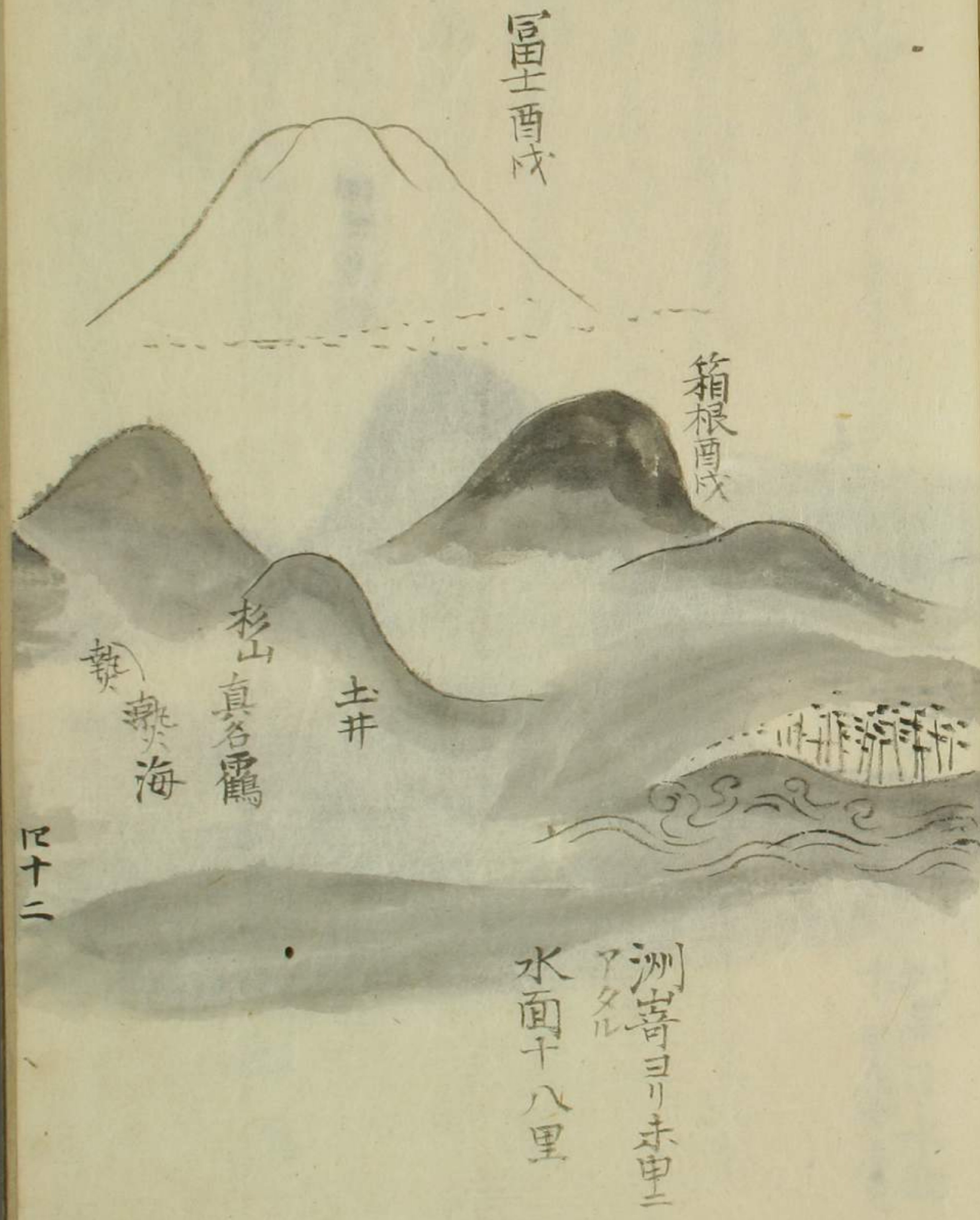
別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

別光川名 行戸 さいた 相原 妻良 別光の妻良

一 七浦と稱す一池を川下若目治城と一浦をうす一
 小戸系 陸浦 乙原 白原等
 一 六ヶ浦と稱す一池を川下若目治城と一浦をうす一
 一 例崎より伊豆海向十里大嶋と同一也
 一 例崎より八里申ふ島あり
 一 例崎治父の説を信ずるは治に敷く割て南に五里
 東西三里本わらんと或る大嶋半のくそを治とす
 一 一と又大治の例を治とす一は治一と
 一 い治とす一は治とす一は治とす一は治とす一は治とす
 一 一は治とす一は治とす一は治とす一は治とす一は治とす

一 例崎より三浦（七里尉ヶ嶋乃例松）と一は治とす一は治とす
 一 例崎より富士西成伊豆西箱根成亥大坂成大
 山石等成椋嶋 濂舎 同尉ヶ嶋成亥三浦同
 一 例崎成亥各地伊豆の土井松山志名等伊豆椋
 現勢海細代洋東下河迄近は治の口一帯を地
 圖に載



富士西成

箱根西成

杉山
真名鶴

土井

新
海

四十二

洲寄ヨリ未申
アタ
水面十八里



大山石尊成

大磯表成

榎嶋成

洲松

五所

鎌倉亥子

鉄沢

三浦成亥

一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...
 一 舟中...

大嶋

四十三

飯嶋

卜三

洲寄司水面
十八里未申當

伊豆権現



網代

伊東

下田

一 洲崎より府中へ三里府中をへ使布動(三里餘) 路を載

府中 安房郡 磯田 中懸 中村 中村 平郡 荒川 平郡 小塚 中使布動 中使布

比山中と云ふも民家次比一の流路に

一 府中の地名を云ふと云ふ安房の國府と云ふ事

なりぬれぬ所小安房國府を平郡と云ふ今と
安房郡より平人又府中 比山中と云ふも中府か
まことなり

一 府中より寶珠院と云ふ言家の大刺首里見氏

新頼より寺願之音名中河所と云ふ三百六十の寺
所なりといふ

一 府中の邊の民家と云ふ志田といふ中使布動

所と一柳の別荘と云ふ又麦田の界を植て結と云
世物実赤色茶厚して青椽樹といふなり此の書
翠ぬと云ふて 藤と云ふはと云ふはと云ふは
とと云別を云ふと云ふはと云ふはと云ふは

一 府中より磯村の延命寺といふ寶院あり里見氏

お世の境なりなりと云ふ石里見氏の世田籍を
文書との比兵部等近計室と云ふて清ふと云ふ世

一 新中よりつりときりふとて又は
 一 近令ちいし山門の竹書と長谷山と書し願わ月
 舟をとり月舟と室河氏の代建仁寺の傍
 一 府中の人流りしとほふ近きわらよの騎橋と
 一 方酒田地名と先と相傳わぬふるの兵廿五
 騎よりと又別表別別表村とて千騎東上
 有説前同く後人誤傳て里見氏同國の事と
 ちりぬぬなり

一 平郡平郡村よ夏津の社と建やと夏と細川の
 新飲書一姓あり又里見氏の白旗一竿古飯而
 一 山園わらと梅小飯而之山園の内を園の俗上の扱を
 知と梅小細川の敷世室河氏の権行をわらと未
 考新飲書なりとのまらとて同く
 一 房列の北方若竹^{タケ}村あり村毎房よ若竹^{タケ}の
 多一若竹石田とて一とて一とて一とて一とて
 一 長狭郡の山中わはれこのよのあり
 一 平郡村夏津の祠建 後の山久勢最も雄偉
 巨雷と伝傳るも山とて 教家叙以のや山宗
 語ふして撰るる一とて一とて一とて一とて
 一 云々云々の扱も扱とて一とて

一 平初荒川邊の民大農ハ牛二匹ふるまは小農ハ牛
 一匹のまゝふるまはてぬとてぬハ竹云のまゝ山田を
 いかし日のまゝなぬとて山中処々樵半とぬ寺道一
 一 安房郡府中の代より長狭郡大山寺切なる富と
 一 又西の竹山にたんとてぬとぬ大農よりた(竹と
 一 西向より登れとてぬ一とぬい村ぬれとぬ所
 一 ともうとぬとぬ及竹一とぬ富山の竹云一の富山
 一 としてぬ^引竹とぬ竹の海と下とぬ又富山は
 一 りりて平初村天神一^引とぬ竹の嶽とぬ
 一 竹山と富山と竹山との竹とぬ竹とぬ富山より

一 ともゆ又平初村を長狭郡動一^引とぬ奉園好とぬ荒
 一 川邊のまゝおまゝりりり富山山上の親善のまゝ有
 一 少を尊社日備^引とぬ奉一とぬ竹の従い長狭郡動
 一 少の根と富山の竹とぬ^引の奉如郷道寺の竹
 一 小りし竹は甚二とぬとぬとぬ^引小平初村とぬ竹
 一 竹の嶽とぬ

一 長狭郡奉園の友坂の代より東とぬ村を左とぬ
 一 後西の平家邊の山近とぬ三里餘南の三里半り
 一 わりといふ又奉園のまゝ竹の竹の竹とぬ
 一 竹の名のまゝとぬ又西向の代に竹とぬ竹とぬ

一 安房の地方に郡のありて云は流境の書長狭郡と
亦一とて次に安房郡と云ふ事郡朝夷郡と云ふ處
の地あり

一 府中迄余らりて狭の地を郡と云ふ事一と云
すは荒川迄ありて東南より北に流る

一 長狭郡と云ふ事原流村と云ふ事一と云は
半郡流田迄ありて云は流野と云ふ事一と云は

方よりと云ふ事一と云は

一 長狭郡と云ふ事原流村と云ふ事一と云は
山本の所と云ふ事一と云は

一 ありわれと云ふ事天好郡國村と云ふ事一と云は
里國村と云ふ事安房の上流の地天祿山の流國村

一 ありと云ふ事荒野と云ふ事二里

一 長狭郡の地より並通ありて上流市流郡と云ふ
並通ありて又同國を流郡と云ふ事一と云は

一 ありと云ふ事

一 長狭郡と云ふ事大なる事と云ふ事一と云は
田貫流の地ありて流ありて流ありて流ありて

一 荒川の流ありて南より流る事と云ふ事一と云は
荒川

川に水がけの境より流るゝ東の方並東と流村
との間に流る海ふもせ

- 一 長狭郡不動の言龍山大山と号しとせは東の意なり
敬宗詔書西武吉神無元年八國基良辨信部
の彫刻して相の大山と不動と日本国記と云り
- 一 不動の系といせ月と日といふことにして村の祖
と云ふは七重と別ちつことと越後守と書り
舞といふことと云ふは里の長岡園と云ふの俗
なりといふ

一 不動の石階と云ふは石の力も紫花あり例の井あり

井上の俗語ていふ本はふよの石を木階といふ
皮を紫葉散花といふ事の中にも石を木階といふ
語もあつた紫葉を石を木階といふ事あり
花と書し根と花といふは浅くぬれぬ事あり

一 不動の石階百級階といふは階有る彫刻の終
首水といふ

一 不動の階下は樟樹の了ら圍るあり地は古事
ふふといふ事あり

一 長狭郡大山より反郡溪村の乃東と号して
川は道たふ載

大山寺 系良井 狭野 谷作 系良井
 安國寺 松まろ まつ川 花備 白上
 小川 池田 坂東 竹平・おき
 大目 中い 花房 浦原 上人塚
 車線 後萩 新庄に里
 一 大山寺より後萩への路 大目よりまわりの村はふ
 大目寺あり別当は由緒あるといふ古言伝わり
 古人の説もその池におきききとある所の地は
 ありといふ
 一 義経流るる所 扇國の住人まらりの古所 安國のさま

源氏と伝くは按まらるる所 系良井のそば 郡小川の
 幸見ゆ 系良井と安國と傳はるるやうにわきま
 西に所 系良井よりなり 一 或曰 朝妻 郡 安國
 といふ村ありといふなりや
 一 長狭郡 花房村より 河内寺といふ日家のちわりの寺
 傾き石文永中より日蓮の弟子 河内坊といふ 河内
 條のまに 系良井といふ所の 河内坊より 河内
 一 河内坊の下の寺 河内坊といふなり 是より 文永中
 系良井日蓮といふ所 河内日蓮坊の松は 河内坊

一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時

一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時
一 一と後人各はあて 雲雲掛に... 時

一 法隆山の寺寮お多今姑二と春

涅槃像 毘首鞞磨作 法華經 毛毫

菩薩相のるに會曼荼羅華華 不動

画 明澤筆 法苑經 八軸紙令泥日

蓮華

一 法隆山の寺の上流夫隅に代寺の長狭郡の地と
と元表の建一所より半近一里あり

一 法隆山の地西の上方上流平流夫隅に接し

一 清原山の源池とるる一房流二匹の流守とる事と
今都々安房より一里あり

一 法隆山の北比山中に里に方ありと云く

法隆山の月堂と名をて廣木のはりあると云く
よとて机の上の扉屢味と云くは生法と云く

一 志芳白の二枚有上流と陳接り元流と月堂懸
根而し本小堂最難動有頼及松ふ用砂と花植

一 惟取山に盤懸於有流二旨処毎日酒の甚功
用小白元將事所其を結する香願卒事又

一 小景中の奇有也梅ふ世との花芳白の二一を
何よりん始白元と者舞の時と干色事あり

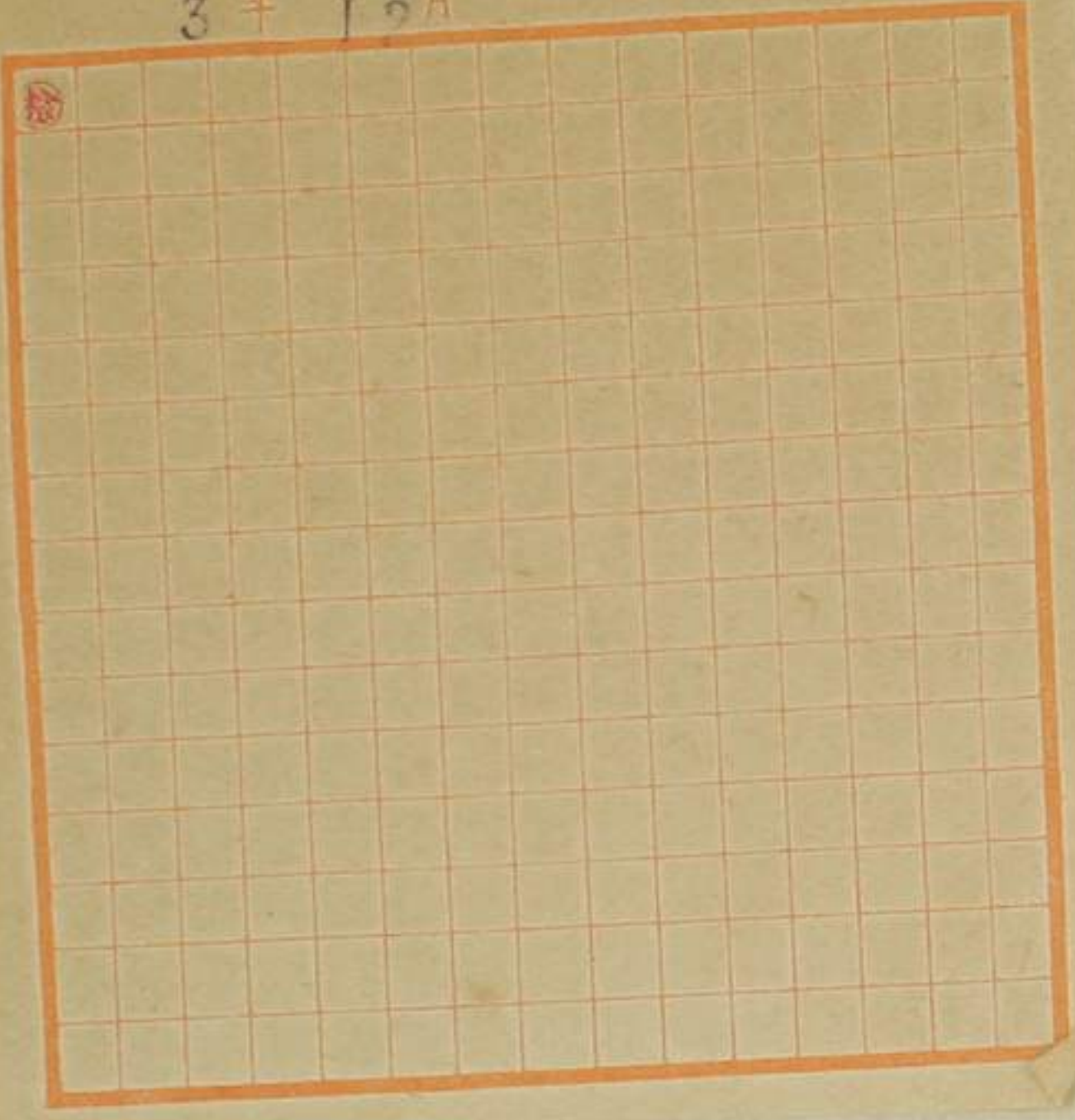
香も梅ふ代と世との有事と云くは法隆山と

一 郡藤本村の山中社に産せしはた久津原の春日を産せし
は霞山より上流赤木の地大田本近村社に里吹流た
見るとは霞山 横峯 大田産 汝をな 板を
西流田 大田本 世有 七キキキ 赤木の少流 減る事由と
事とすは古俗伝ては十八流と云ふ世地力若者秋
和契と云ふ産ん

一 長村郡東條の清浦より光山産せしと云ふ日蓮
流の割りの寺伝せし右日蓮産せしの地よりちの例
も随と水と云ふなり 日蓮 事此より云ふ日蓮
姓と云國傳は遠に其名市志と云ふ人母ははる

世に死せしその後後地川の事貞應元年より
傳へるも名田業三林長十二歳しては霞山道
坊の事子と云ふ名と日蓮と改と稱し今産せし寺
の建し地と流人市志と其宅の地なり
市志の石塔遠に後井の邊も昔遠村好是寺といふ
日家の寺あり山号觀好山といふ海道名所也
一 房伝の院より市志の地名ありこの東條の國海市
川村の清と云ふ事日蓮の事此より云ふ
一 市志の寺ありと云ふ事日蓮の事此より云ふ
清と云ふ

3年 10月



市夜とことまら上は素瀧の代基宿といふ所は
その代基宿の南にあり海肆あり宿あり房総
社家の入穂の代基宿の宿ありとありあり
とあり

一 同郡上野村より膳浦東大田東は法院良

一 同村よりありあり山見河ち人いふ葦野山をり
とあり

房総志巻二終

市を夜とてこまら上は素瀧の代基宿といふ所は
云の氏を南ふも後けり海肆多宿あり房総
辻東の久穂の是の代ぬり市を夜とて宿あり東
とあり

一 同郡上野村より膳浦東大田東は法院良

一 同村よりある高り山又河中人以ふ荒野山と
とあり

房総志巻之二終

